

**●奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科物質創成科学専攻  
「新領域を切り拓く光ナノ研究者の養成」の事例 <理工農系>****具体的に何を実施したのか**

- ・博士論文研究の進捗状況及び身につけるべき能力の習得度を評価するスーパーバイザーボード制を充実させた。年2回（6月と11月）中間審査を行い、各学生のスーパーバイザーボードの構成は、主指導教員と他研究グループの教員2名以上を含む4名以上とした。さらに、以下のルールを適用した。1）他研究グループの教員のうち1名が学位論文審査委員会の委員長を務める（副指導教員）。2）他分野の教員を必ず1名加えなければならない。3）スーパーバイザーボードには、3つ以上の研究グループから教員が含まれていなければならない。4）助教が加わってもよい。5）学位論文審査委員会とスーパーバイザーボードは重なってもよい。

**実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと**

- ・産業界で活躍する連携研究室の客員教授や助教などの若手研究者もスーパーバイザーボードのメンバーとなることを可能とし、学生が様々なバックグラウンドを持つ研究者と研究討論をすることにより、広い視野でアウトプットを意識させた。
- ・スーパーバイザーの評価項目は多岐にわたったが、それぞれの項目の評点とコメントを記載することにより、学生が自分の達成度を客観的に判断できるよう配慮した。
- ・円滑な学位授与を推進するため、各スーパーバイザーの総合評価が4.0に達することを学位審査願の受理条件とした。

**どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか**

- ・学生は学位取得に向けて強化すべき弱点を理解した上で、円滑な学位取得を目指すことができるようになった。
- ・標準修業年限内学位授与率は、事業期間を通じた平成19年度（秋）－21年度（春）入学生で向上した。

●奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科物質創成科学専攻  
「新領域を切り拓く光ナノ研究者の養成」の事例 <理工農系>

具体的に何を実施したのか

- ・教員5名からなるキャリアパス支援室を新たに設置し、キャリアパス支援を充実させた。キャリアパスセミナーを年数回開催し、学生の個別相談会も開催した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

- ・これまでキャリアパスセミナーを担当され、実績を積まれて来た外部講師、および企業で豊富な採用活動の経験を有する外部講師を招き、個別相談会（模擬面接とアドバイス）を含む実質的な進路支援を行うよう工夫した。
- ・学生自身がキャリアパスを具体的に考える機会を提供するために、D1、D2学生を対象として、「企業・研究所見学会」を新たに導入し、年6回実施した。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

- ・国立大学法人・大学共同利用機関法人の第1期中期目標期間の業務の実績に関する評価結果における学部・研究科等の教育研究の現況分析では、教育に関する項目、「教育の実施体制」、「教育内容」、「教育方法」、「学業の成果」は全て「期待される水準を上回る」の評価、「進路・就職の状況」は最高の「期待される水準を大きく上回る」の評価をいただいた。全777組織中、「進路・就職の状況」で「期待される水準を大きく上回る」の評価をいただいたのは2学部・研究科のみであり、本研究科はその一つとなった。
- ・学生アンケートでは、企業・研究所見学会に対して、「大学院との会社との研究の進め方の違いや各会社の風土の違いを実感することができた。実際にこれらの経験は自らの就職活動にも十分に役に立った。」「企業の研究所を見学し、実際に話を聞くよい機会となった。」などの感想が寄せられた。

**●奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科物質創成科学専攻  
「新領域を切り拓く光ナノ研究者の養成」の事例 <理工農系>****具体的に何を実施したのか**

学生の自学・自修の精神を養うため、提案・実行・報告の一連の事業推進スキームの経験を通して、自立的研究遂行能力や研究経営能力など研究者としての素養を身につけさせた。特に、学生が主体となって企画立案した国際セミナーの開催を、審査に基づき支援し、国際的に活躍する研究者に求められる会議企画・運営能力やコミュニケーション能力を培った。

**実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと**

招待講演者は企画学生が決定し、招待講演者への招待状も学生から送付され、開会の挨拶や座長など、運営は全て学生が行うよう工夫した。

**どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか**

- ・日本学術振興会特別研究員や財団の研究助成などの申請件数は平均 1.4 件、学生の国際学会での発表件数は在籍中、平均 3.9 件となり、それぞれの目標を上回ることで、学生の自学・自修の精神が向上した。
- ・学生アンケートでは、講演者との連絡やセミナーの司会進行を行った学生から、「普段、セミナーや学会では、発表することしかなかったため、主催者側の大変さを実感することができた。また、今回様々な国や大学から参加をしていただき、議論もでき大変いい経験、知識を得られたと思う。」との感想があった。